

東海「ジオパーク」認定へ動き

地域再生

東海地方で認定されたジオパークは静岡県の「伊豆半島ジオパーク」のみだ。半島の特異な成り立ちを学べる博物館などを整備し、温泉や食体験とともに観光資源に育ててきた。知見を海外に伝えようと12月にキルギスの視察団を受け入れた。他地域でも希少な地形を観光や学習に生かそうと認定を目指す動きが出ている。



岐阜県高山市では飛騨山脈をジオパークとして育てる構想が進む

岐阜・高山、飛騨山脈で構想

伊豆半島は太平洋上の海底火山が火山活動を続けながらプレートとともに北上し約60万年前に本州とぶつかって生まれた。「衝突地点」の沼津市や三島市では市民が憩う公園でも溶岩の跡などが確認できる。2012

年に日本ジオパークに認定された。16年には半島の歴史を、実物の岩やプロジェクションマッピングなどで学べる博物館「ジオリア」が伊豆市に開館。18年の国連教育科学文化機関（ユネスコ）による世界ジオパーク認定に弾みをつけた。

岐阜県が高山市内に再整備して7月に開いた「中

部山岳国立公園と飛騨市「スターセンター」では紹介映像や岩石の展示などで学べる。日本ジオパークの登録申請は学芸員の設置など条件の壁から保留状態だが、推進協会の田中裕常務理事はPR強化など「着実に（活動の）根を強くしていきたい」と意気込む。

右段中ほどより左への記載

ジオパーク認定目指す

元市議・伊藤さん(飯南町有間野)ら有志の会
市や地元「月出の中央構造線」など協力動き掛け



「月出の中央構造線」などの三重ジオパーク認定に向けた思いを説明する伊藤会長(左)と小林最高顧問(市役所で)

2024年(令和6年)7月26日 金曜日

重三刊タ

松阪市飯高町月出にある国指定天然記念物「月出の中央構造線」などの日本ジオパークへの認定を目指す「三重ジオパーク登録提案の会」(伊藤義徳会長、約10人がこのほど、市役所で活動状況を報告した。日本ジオパーク委員会(東京)が認定する日本ジオパークは希少な「地質遺産」のある地域などが対象。行政書士で元市議の伊藤会長(71)は「飯南町有間野」は「登録実現をきっかけに世界に飯南、飯高地域などの文化を知ってもらいたい」と呼び掛けた。

日本ジオパークは地球規模の科学的視点から見えて意義のある景観や地質を持ったエリアが対象。登録提案の会では、月出の中央構造線や市指定天然記念物「栗野・田引の中央構造線」をはじめ、多気郡多気町などにもある希少な地質遺産を包括し「三重ジオパーク」への認定につなげたいと考えている。

伊藤会長によると7月までに竹上真人市長や飯高地域の住民自治協議会会長らにも協力を打診。中央構造線の地元の波瀬むらつくり協議会(向東克己会長、約239世帯)、川俣住自治協議会(杉本弘弘会長、約476世帯)からは「協力の確約も得た」という。最高顧問の小林平八郎さん(80)は「飯高町富永」活動経緯などを報告した伊藤会長は「飯南、飯高地域では人口も減少している。ジオパーク認定をきっかけに、ジオリズムで中央構造線を世界に発信し、地域への愛着、次世代に引き継いでいくにつなげていきたい」と夢を語り、旗振り役として「ぜひ市にも動いていただきたい」と求めた。

伊藤会長によると7月までに竹上真人市長や飯高地域の住民自治協議会会長らにも協力を打診。中央構造線の地元の波瀬むらつくり協議会(向東克己会長、約239世帯)、川俣住自治協議会(杉本弘弘会長、約476世帯)からは「協力の確約も得た」という。最高顧問の小林平八郎さん(80)は「飯高町富永」活動経緯などを報告した伊藤会長は「飯南、飯高地域では人口も減少している。ジオパーク認定をきっかけに、ジオリズムで中央構造線を世界に発信し、地域への愛着、次世代に引き継いでいくにつなげていきたい」と夢を語り、旗振り役として「ぜひ市にも動いていただきたい」と求めた。